

## 常盤松御用邸のアリ類

寺 山 守<sup>1)</sup>

Mamoru Terayama<sup>1)</sup>: Ants from the Tokiwamatsu Imperial Villa, Tokyo

### はじめに

常盤松御用邸は、渋谷区の高層建築の立ち並ぶ都市域内にあるが、邸内には照葉樹の林があり、落葉土層の見られる緑地部分が存在する。今回、本御用邸内にてアリ類の生息調査を実施する機会を得ることができた。ここに調査結果を報告する。

### 材料と方法

検視標本は、地表や植物上を歩行中の個体を採集したもの、土中や石下、朽ち木中、枯れ枝等の営巣場所から採集したもののほか、土壌サンプルからツルグレン装置を用いて抽出したものを点検した。標本は全て国立科学博物館に保管される。採集データには次の記号でカーストやサブカーストを示した。af-有翅女王, df-脱翅女王, m-オス, w-働きアリ, s-大型働きアリ(兵アリ)。また、土壌サンプルからツルグレン装置により抽出されたものには(TF)の記号を付した。

### 調査結果

以下の4亜科16属20種が得られた。亜科名に続き、カッコ内に今回の調査で得られた属数と種数を示す。

#### Formicidae アリ科

#### Poneridae ハリアリ亜科 (2属, 2種)

1. *Pachycondyla chinensis* (Emery) オオハリアリ  
3w, 31.III.2003, S. Nomura leg. (TF); 2w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.; 5w, 16.IX.2003, M. Terayama leg.
2. *Hypoponera sauteri* Onoyama ニセハリアリ  
3w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.

#### Proceratinae カギバラアリ亜科 (1属, 1種)

3. *Proceratium morisitai* Onoyama et Yoshimura モリシタカギバラアリ  
1w, 31.III.2003, S. Nomura leg. (TF).

#### Myrmicinae フタフシアリ亜科 (9属, 11種)

4. *Pheidole fervida* F. Smith アズマオオズアリ  
1s, 5w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.; 2s, 4w, 16.IX.2003, M. Terayama leg.

<sup>1)</sup> 東京大学農学部応用昆虫学研究室 東京都文京区弥生  
Laboratory of Applied Entomology, Division of Agriculture and Agricultural Life Sciences, The University of Tokyo, Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8657 Japan  
E-mail: terayama@fa2.so-net.ne.jp

5. *Temnothorax congruus* (F. Smith) ムネボソアリ  
1w, 16.IX.2003, M. Terayama leg.
6. *Tetramorium tsushimae* Emery トビイロシワアリ  
10w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.; 5w, 16.IX.2003, M. Terayama leg.
7. *Solenopsis japonica* Wheeler トフシアリ  
2w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.
8. *Oligomyrmex yamatonis* Terayama コツノアリ  
1s, 31.VIII.2003, S. Nomura leg. (TF).
9. *Pristomyrmex pungens* Mayr アミメアリ  
8w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.; 3w, 16.IX.2003, M. Terayama leg.
10. *Crematogaster teranishii* Santschi テラニシシリアゲアリ  
3w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.; 2w, 16.IX.2003, M. Terayama leg.
11. *Crematogaster osakensis* Forel キイロシリアゲアリ  
7w, 31.III.2003, S. Nomura leg. (TF); 1w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.
12. *Strumigenys lewisi* Cameron ウロコアリ  
1af, 2df, 15w, 31.III.2003, S. Nomura leg. (TF); 2w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.
13. *Strumigenys* sp. キタウロコアリ  
1df, 31.III.2003, S. Nomura leg. (TF).
14. *Pyramica canina* (Brown et Boisvert) ヒラタウロコアリ  
1af, 2w, 31.III.2003, S. Nomura leg. (TF).

Formicinae ヤマアリ亜科 (4 属, 6 種)

15. *Paratrechina flavipes* (F. Smith) アメイロアリ  
1df, 9w, 31.III.2003, S. Nomura leg. (TF); 2w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.; 1w, 16.IX.2003, M. Terayama leg.
16. *Paratrechina sakurae* (Ito) サクラアリ  
3w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.; 2w, 16.IX.2003, M. Terayama leg.
17. *Lasius japonicus* Santschi トビイロケアリ  
2w, 31.III.2003, S. Nomura leg. (TF); 6w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.; 4w, 18.IX.2003, M. Terayama leg.
18. *Lasius umbratus* (Nylander) アメイロケアリ  
3w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.; 4w, 16.IX.2003, M. Terayama leg.
19. *Formica japonica* Motschoulsky クロヤマアリ  
1w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.; 1w, 16.IX.2003, M. Terayama leg.
20. *Camponotus vitiosus* F. Smith ウメマツオオアリ  
3w, 24.VI.2003, M. Terayama leg.

考 察

日本では 2003 年 12 月の段階で、学名未決定種を含めて 10 亜科 58 属 277 種のアリ類が得られている (寺山, 2004)。東京都では、都本土から 7 亜科 32 属 81 種が記録され、伊豆諸島および小笠原群島、火山列島と言った小笠原諸島まで含めると 7 亜科 38 属 132 種が記録されている (寺山・久保田, 2002)。

今回、樹上営巣性のアリとしてムネボソアリ、テラニシシリアゲアリ、ウメマツオオアリが得られ

た。樹林内に生息する林床性のアリとしては、モリシタカギバラアリ、ニセハリアリ、コツノアリ、ウロコアリ、キタウロコアリ、ヒラタウロコアリがあげられる。とくにツルグレン装置による土壌サンプルから抽出されたモリシタカギバラアリは、2002年に新種として記載されたばかりの種で貴重な記録である (Onoyama & Yoshimura, 2002)。本種はおそらく、節足動物の卵をおもな餌としているものと思われる。また、ウロコアリ、キタウロコアリおよびヒラタウロコアリは林床に多く生息するトビムシ類を狩って餌としている。

樹林内で個体数として多く見られた種は、アメイロアリ、アミメアリ、キイロシリアゲアリ、アズマオオズアリであった。また、アメイロケアリの営巣が樹齢の行った照葉樹の根元から見出された。本種はトビイロケアリやハヤシケアリにおそらく一時的な社会寄生を行なう種である。また、大きな樹木の根元に巣を作ることから、都内では古い樹木の多い比較的大きな公園緑地でないと見られない種でもある。

裸地や半裸地、芝地等の開けた場所に生息するアリとして、トビイロシワアリ、トビイロケアリ、クロヤマアリ、サクラアリが多く見られた。これらは都市化に対して最も抵抗性の強い種で、街路樹の植え込みや裸地状の公園でも巣が見られる種である。

渋谷区からこれまでに記録されているアリは、戦前のものでウロコアリとムネボソアリがあり (寺西, 1929)、さらに、近藤 (1975) および Kondoh (1978) に 16 属 17 種が記録されている。とくに Kondoh (1978) では、渋谷区本町の 500 m<sup>2</sup> の区域で 1968 年に 17 種のアリが生息していたものが 1971 年には 10 種に減少したことが報告されており、調査地域の植生部分が 15% から 5% に減ったことが 7 種のアリを絶滅へ導いたとしている。樹林のある緑地でも、落葉土層の発達したものとそうでないものとは、生息するアリの種数が異なり、落葉土層の存在はアリ類の多様性を高める事が報じられている (寺山, 1997)。今回の調査結果でも、渋谷区のような都市化の進んだ地域においても良好な落葉土層を残す樹林があれば、林床性のアリ類の生息が可能となり、より多くの種の生息が可能となることが示された。

## 謝 辞

今回の調査の実施に際して、多くの便宜を賜った常陸宮正仁殿下に心より御礼申し上げる。また、調査をともにした大和田守博士、ツルグレン装置による貴重な標本を提供された野村周平博士、採集品の整理に携わって下さった新津修平氏、慶野志保子氏にも深謝する。

## Summary

The ant fauna was studied at the Tokiwamatsu Imperial Villa, Shibuya-ku, Tokyo. Twenty species belonging to 16 genera are recorded: two species in the subfamily Ponerinae, one species in Proceratiinae, 11 species in Myrmicinae, and six species in Formicinae.

## 引用文献

- 近藤正樹, 1975. 都市化とアリたち. 生態学講座月報, (16): 3-5. 共立出版, 東京.
- Kondoh, M., 1978. A comparison among ant communities in the anthropogenic environment. *Memorab. zool.*, 29: 79-92.
- Onayama, K. & M. Yoshimura, 2002. The ants of the genus *Proceratium* (Hymenoptera: Formicidae) in Japan. *Ent. Sci.*, 5: 29-49.
- 寺西 暢, 1929. 日本山蟻類の習性と分布 (二). 動物学雑誌, 41: 312-332.
- 寺山 守, 1997. 多様性保護の視点からの環境保全—アリ群集を用いた研究を中心に—. 生物科学, 49: 75-83.
- 寺山 守, 2004. 日本産有剣膜翅類目録. *Mem. Myrmecological Soc. Japan*, (2): 1-123.
- 寺山 守・久保田敏, 2002. 東京都のアリ. 蟻, (26): 1-32.